

形ノ大火口ヲ見ル。

### 第五版

第一圖ハ駒ヶ岳中腹ヨリ西北ニ駒ヶ岳尖峰ヲ望ム  
圖ニシテ尖峰ハ駒ヶ岳熔岩ヨリ成リ此上ヲ覆フテ  
集塊熔岩ノ厚層ヲ見ル。

第二圖ハ留ノ湯附近ヨリ西北ニ駒ヶ岳ヲ望ム圖ニ  
シテ大泥流ガ此方面ニ流レ來リ赤禿山、黒峰等ノ  
堆積峰起伏スルヲ見ル。

### 第六版

第一圖ハ火口壁ノ一部ナル馬ノ背ヨリ橢圓形火口  
内ヲ望ム圖ナリ砂原岳ノ縞狀懸崖ハ火口壁ノ一部  
トシテ聳エ内部ニハ安政ノ爆裂孔、明治三十八年  
ノ爆裂孔等ヲ望ムベシ。

第二圖ハ一番谷ニ於ケル集塊熔岩ノ露出ナリ上ハ  
泥流ニヨリテ被覆セラル。

### 第七版

ハ顯微鏡下ニ見ラル、紫蘇輝石及ビ普通輝石中ノ  
種々ノ包裹物、兩者ノ共生ノ状態ヲ示シタルモノ  
ナリ、本文中班晶、鑛物ノ性質ナル項ヲ見ルベシ。

### 第八版

第一圖ハ浮石ノ薄片ニシテ多孔質ノ石基中ニ長石  
及紫蘇輝石ノ存在スルヲ見ル擴大約三十倍。

第二圖ハ基底熔岩(複輝石富士岩)ナリ擴大約三十  
倍、大ナル斜長石班晶多シ右方ノ龜裂ニ富メル細

長キ結晶ハ紫蘇輝石ニシテ左方ノ下部ノ半ハ顯ハ

レタルモノハ普通輝石ナリ。

### 第九版

第一圖ハ駒ヶ岳熔岩(複輝石富士岩)ノ橄欖石ヲ含  
ム部分ナリ右方ニ橄欖石ノ結晶アリ擴大凡ソ二十  
五倍。

第二圖ハ集塊熔岩ニシテ石基ハ褐色「ガラス」ヨリ  
成ルモノ擴大凡ソ三十倍。

### 第十版

第一圖ハ顯微質「ノーライト」(紫蘇輝石飛白岩)ニ  
シテ白色ノ部分ハ長石及堇青石、黒色ノ部分ハ磁  
鐵鑛、其間ニ岩漿侵蝕ヲ受ケタル紫蘇輝石ト自形  
ノ黒雲母ノ結晶ヲ見ル擴大約百五十倍。

第二圖ハ「ノーライト」小紋岩ニシテ擴大約三十倍  
斜長石ノ帶殼構造ヨク顯ハル。

### 第十一版

第一圖ハ堇青石ヲ含ム砂質凝灰岩ニシテ中央ニ近  
ク二個ノ底面ニ近キ断面アリテ不完全ナガラモ其  
三健晶ヲ認め得ベシ(A)其側ニ稍、大ナル柱面斷  
面及ビ其集合體アリ(B)擴大約二百倍。

第二圖ハ石英紫蘇輝石富士岩ニシテ左方ハ其岩漿  
分泌ノ結果生ジタル完晶質ノ部分ナリ、右方ニ石  
英ガ岩漿侵蝕ヲ受ケタルモノ見ラル、擴大二十五

倍。

第三圖ハ橄欖石ヲ含マザル「ドレライト」ニシテ斜長石ハ凡テ自形ヲ呈シ輝石ノ粒及ビ結晶ハ多ク斜長石ノ隙間ヲ充填ス擴大約二十倍。

第十二版 第一圖ハ完晶質火山彈ノ圖(78)ナリ此ガ半流動體ノ時ニ地上ニ落チタル爲メニ生ジタル裂目ニ注意スベシ。

第二圖ハ同上ノ薄片ヲ鏡下ニ見タルモノ斜長石ハ凡テ自形ナレドモ輝石ハ屢々半自形又ハ他形ヲ示シ斜長石ノ隙間ヲ充スコトアリ擴大約二十倍。

第十三版 第一圖ハ眞珠岩質流紋岩ニシテ姫川中流ニ露出スルモノナリ石基ハ「ガラス」質ニシテ玉葱狀裂目ヲ示ス擴大約二十五倍。

第二圖ハ「ヤベツ」式富士岩ニシテ石基ニハ「ガラス」物質少ク、斜長石ノ違、ヒ、石(貫通雙晶)多キ事特徴ナリ擴大約三十倍。

第十四版 ハ渡島國茅部郡及ビ龜田郡ノ地質略圖ナリ但シ小ナル岩脈等ハ此ヲ省ケリ本文中駒ヶ岳火山ノ基底ハ項參照。

第十五版 第一圖ハ白蛇澤登山道ノ海拔約五百五十「メ」ノ處

ニアル俗稱「物見臺」ヨリ大沼小沼ヲ展望スル圖ナリ後景ハ渡島山脈ニシテ中央部ハ此山脈ノ最低部ナリ。

第二圖ハ頂上噴火口ノ内部ニシテ田中館岩上ヨリ見タル景ナリ砂原岳、海鼠山、安政ノ火孔、明治三十八年ノ火孔ヲ見ルコト第六版第一圖ト同ジ。

第十六版 第一圖ハ駒ヶ岳尖峰ノ最高點ナリ駒ヶ岳熔岩ヨリ成ル。

第二圖ハ明治三十八年ノ爆裂孔ニシテ現今モ盛ニ硫瀝ヲ噴キツ、アリ後景ハ海鼠山ナリ。

第三圖ハ駒ヶ岳停車場附近ヨリ東方ニ駒ヶ岳火山ヲ望ム圖ナリ。

第十七版、第十八版、第十九版、第二十版ハ駒ヶ岳驛ヨリ大沼、留ノ湯ヲ通リテ鹿部村、砂原村及ビ森村ニ向テ駒ヶ岳火山ヲ一週シツ、寫シタル寫眞ナリ第三版及ビ第四版ヲ參照スベシ、第十九版第二圖及ビ第二十版第一圖ニ於テ右方ニ三角形ノ尖リ見ユルハ駒ヶ岳ノ尖峯ナリ。

